

宇宙開発の現状報告

(平成 23 年 5 月 11 日(水) ~ 平成 23 年 5 月 17 日(火))

平成 23 年 5 月 18 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)の運用終了について
JAXA は、「だいち」の電力異常発生後、約 3 週間にわたって「だいち」との交信を試みてきたが、交信不能と判断し、5 月 12 日(木)10 時 50 分に「だいち」の停波作業(「だいち」搭載の送信機とバッテリーを停止するコマンドを地上より送信)を実施し、これをもって同衛星の運用を終了したと同日発表した。「だいち」は、平成 18 年 1 月 24 日に種子島宇宙センターから H- A ロケット 8 号機により打ち上げられ、設計寿命 3 年、目標寿命 5 年を超えての運用を通じて、災害緊急観測活動など、地球観測に関する多くの成果をあげてきた。
- 技術試験衛星 型「きく 8 号」(ETS-)による宮城県牡鹿群女川町への人工衛星回線提供の終了について
JAXA は、東日本大震災における災害対策支援として宮城県牡鹿群女川町へ「きく 8 号」による人工衛星回線を提供してきたが、地上通信インフラが回復したことから、女川町からの申し出により、5 月 12 日(木)に「きく 8 号」人工衛星回線の提供を終了したと発表

した。

- 準天頂衛星初号機「みちびき」の測位信号による都市部での測位率の改善について
5 月 16 日(月)、JAXA と三菱電機(株)は、GPS 衛星に「みちびき」が加わることにより、都市部における測位率が大幅に改善することを確認したと発表した。1 月 18 日から 3 月 31 日まで、「みちびき」からの測位信号を受信できる端末を計測車両に搭載し、高層ビルの立ち並ぶ新宿と細い街路の多い銀座において、カーナビなどで利用される「一般測位」と測量に用いられる「高精度測位」で実験を行った。その結果、「一般測位」では新宿で 2.5 倍、銀座で 1.7 倍、「高精度測位」では新宿で 4 倍、銀座で 2 倍の測位率の改善(測位可能エリアの拡大)を確認した。

宇宙開発に関する海外の動向

- スペースシャトル「エンデバー号」の打上げに成功 【米】
5 月 16 日(月)12 時 56 分(世界標準時、以下同じ)、米国航空宇宙局(NASA)は、ケネディ宇宙センターより、スペースシャトル「エンデバー号」(STS-134 ミッション)の打上げに成功した。アルファ磁気スペクトロメータ(AMS-02)、エクспレス補給キャリア 3 (ELC-3)、補給物資等を搭載したエンデバー号は 18 日(水)9 時 16 分に国際宇宙ステーションとドッキングし、帰還は 6 月 1 日(水)となる予定。なお、本ミッションをもってエンデバー号は運用を終了し、次回 7 月初頭に予定されているアトランティス号による STS-135 ミッションをもって全てのスペースシャトルの運用は終了することとなる。